

部落解放研究第49回全国集会 開催要綱

集会テーマ

「同和对策審議会」答申50年をふまえ、人権・平和・環境を基軸にした
部落解放運動の新たな展望を切り拓く理論研究と実践交流をすすめよう

日 時 2015年11月10日(火)～12日(木)

会 場 大分県別府市. ビーコンプラザ コンベンションホールほか
〒874-0828 大分県別府市山の手12-1 TEL 0977-26-7111

集会規模 6,000人

参加対象

- ①部落解放運動・研究にかかわる研究者・労働者・市民・宗教者・企業関係者・学生など
- ②部落解放をめざす行政・教育関係者および各級議員
- ③部落解放同盟の活動家をはじめとする部落大衆

参加費

4,000円(参加・資料費)
※フィールドワークに参加希望をされる場合は、別途申し込みと参加費が必要です。

参加申し込みについて

- ①各団体で参加者の集約を行っていただき、部落解放同盟各都府県連合会にお申し込みください。
- ②個人等、一般で参加される方も、お住まいの地域の部落解放同盟各都府県連合会にお申し込みいただくか、部落解放同盟中央本部にお申し込みください。
- ③参加・資料費の振り込みは、部落解放同盟各都府県連から一括で、下記の口座へお振り込みをお願いいたします。

—〈振り込み先〉—

りそな銀行 桜川支店
普通預金 口座番号 0426304
名義：部落解放同盟中央本部(全研) クミサカ組坂 シグユキ繁之

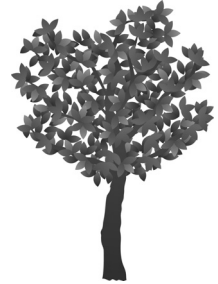
主 催 部落解放研究第49回全国集会中央実行委員会

中央実行委員会構成団体

公益社団法人全国人権教育研究協議会／部落解放中央共闘会議／全国大学同和教育研究協議会
一般社団法人部落解放・人権研究所／『同和問題』にとりくむ宗教教団連帯会議
同和問題に取り組む全国企業連絡会／部落解放同盟中央本部／現地(大分県)実行委員会

現地実行委員会構成団体

日本労働組合総連合会大分県連合会／同和問題にとりくむ大分県宗教教団連絡会議
公益社団法人大分県人権教育研究協議会／大分県人権・同和保育連絡協議会
民主党大分県総支部連合会／社会民主党大分県連合／部落解放同盟大分県連合会



参加割当

都府県	人数	都府県	人数	都府県	人数	都府県	人数
東京	250	静岡	5	和歌山	230	高知	70
埼玉	120	愛知	80	大阪	350	愛媛	10
群馬	80	岐阜	60	兵庫	300	福岡	550
栃木	60	三重	70	岡山	40	大分	2,000
千葉	40	富山	10	広島	80	長崎	70
神奈川	60	石川	10	山口	20	佐賀	120
山梨	5	福井	15	鳥取	120	熊本	100
長野	50	滋賀	200	島根	20	宮崎	70
新潟	10	京都	250	徳島	70	鹿児島	70
福島	5	奈良	300	香川	70		

プログラム

1日目 11月10日(火) 全体集会(コンベンションホール)

12:00 受付

13:30 開会

13:35 主催者代表挨拶

13:40 現地実行委員長挨拶

13:45 地元県連委員長挨拶

13:50 来賓挨拶・紹介



14:10 地元報告 大分県における部落差別の現状と部落解放運動の課題


吉富 博見 (部落解放同盟大分県連合会書記長)

14:40 シンポジウム 「同和対策審議会」答申50年とこれからの部落解放運動

- ◆パネリスト
 - 川口 正志 (部落解放同盟奈良県連合会執行委員長／元中央執行副委員長)
 - 大賀 正行 (部落解放・人権研究所名誉理事／元中央執行委員)
 - 奥田 均 (部落解放・人権研究所代表理事)
- ◆コーディネーター 西島 藤彦 (部落解放同盟中央書記長)

16:40 事務連絡・閉会

2日目 11月11日(水) 分科会・フィールドワーク	
分 科 会	フィールドワーク
9:00 受 付	8:30 ①コース集合
9:30 開 会	②コース集合
16:00 閉 会	9:00 出 発
	17:00 解 散

3日目 11月12日(木) 全体集会(コンベンションホール)	
9:00 受 付	
9:30 開 会	
記念講演	「戦後70年とこれからの日本を考える」 ◆村山 富市 (元内閣総理大臣)
10:40 映画上映	「人間みな兄弟」 (製作年:1960年/上映時間:60分/白黒) 製作:日本ドキュメントフィルムほか 監督:亀井 文夫 原作:杉浦 明平 撮影:菊地 周/録音:大橋 鉄矢/音楽:長沢 勝俊/ナレーション:宮田 輝
	
11:50 閉 会	

フィールドワークの申し込みについて

- ①フィールドワークの申し込みは、別紙「ご宿泊・お弁当・フィールドワークのご案内」をご参照いただき、お申し込みください。
- ②フィールドワークの参加費は、集会参加費とは別料金になります。
- ③フィールドワークの参加費(バス・昼食代ほかを含む)は、5,000円です。
- ④フィールドワークは、定員に限りがありますので、ご了承ください。

ご宿泊・お弁当申し込みについて

- ①ご宿泊につきましては、ランク別の料金設定になります。
- ②ご宿泊、お弁当の申し込み等詳細につきましては、別紙「ご宿泊・お弁当・フィールドワークのご案内」をご参照いただき、お申し込みください。

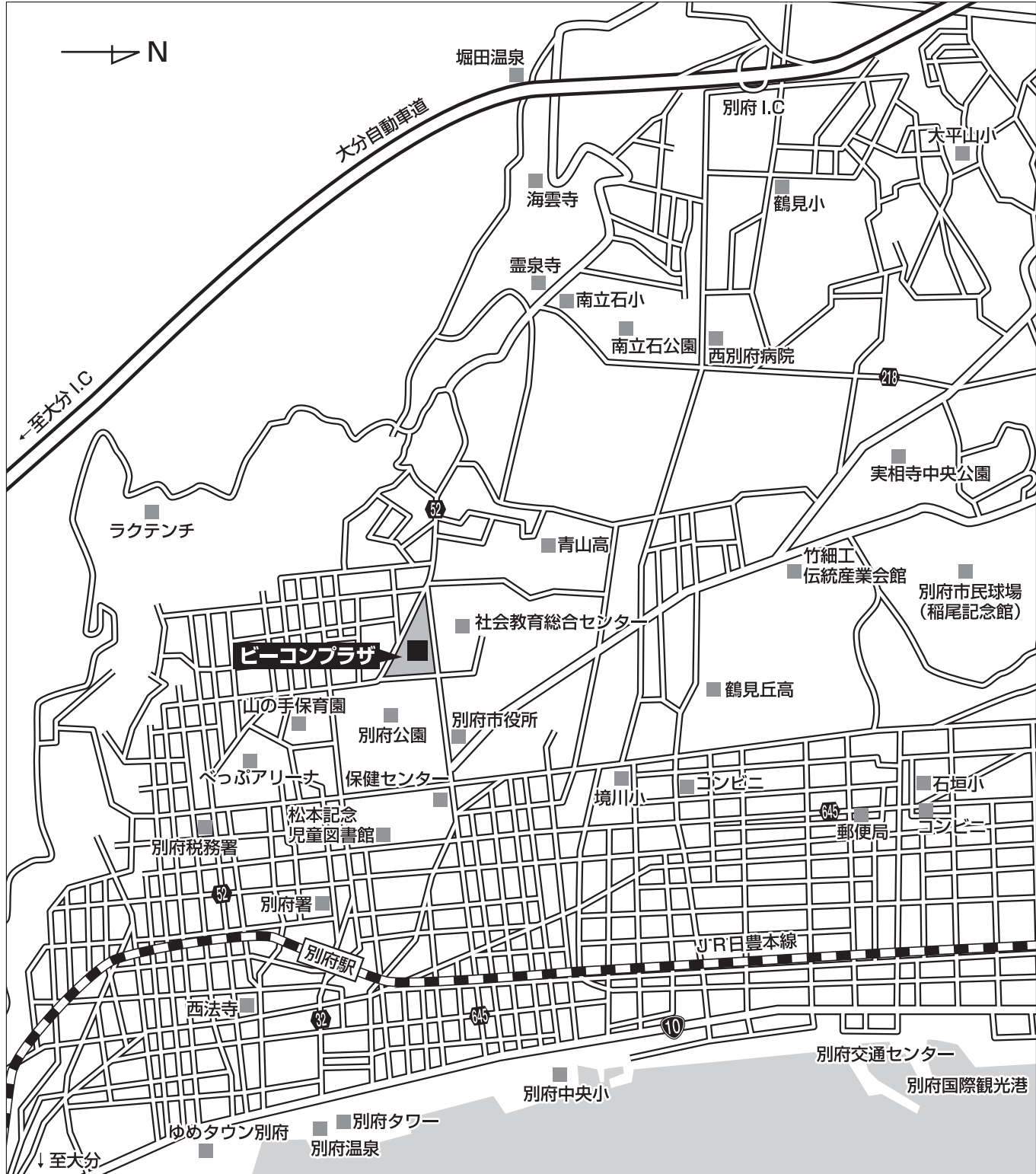
▲ 会場付近地図 △

全体集会・分科会 会場

ビーコンプラザ (別府国際コンベンションセンター)

〒874-0828 大分県別府市山の手12-1

TEL 0977-26-7111



第1分科会 部落史・部落解放運動入門 会場 ビーコンプラザ コンベンションホール

[午前の部]

☆「大分の部落史の掘り起こしに関わって」

◆講師 一法師 英昭（大分県立爽風館高等学校）

■10年程前に大分における部落史の発掘に関わってきた講師にその成果の一部を紹介いただくとともに、現在の学校や市民講座での経験から、部落史から何を学び、部落問題の啓発・学習につなげていくのかについてもお話しいたします。

[午後の部]

☆シンポジウム -これからの部落解放運動を考える-

■「同対審」答申から50年。部落差別の現実も大きく変貌をとげている。都府県や地域での運動に取り組んでいる若い世代が日常活動や地域で抱えている思いなど、これからの部落解放運動について、ともに語り合います。

- ◆パネリスト 宮内 礼治（部落解放同盟鹿児島県連合会書記次長）
宮崎 懐良（部落解放同盟長崎県連合会書記長）
和田 なつき（部落解放同盟大阪府連合会青年部長）
- ◆コーディネーター 安田 茂樹（部落解放同盟中央執行委員）

第2分科会 同和行政・人権行政 会場 ビーコンプラザ リハーサル室

■テーマ

- ①「同和対策審議会」答申から50年をふまえ、あらためて答申が求めたものが何だったのかを学ぶ。とりわけ答申が求めた差別の法規制の必要性について、今日の差別の実態をふまえた取り組みの方向、課題を考える。
- ②特別対策の終了後、残された課題を一般対策で解決することになったが、「生活困窮者自立支援法」をどう課題解決に役立てるのかを考える。

[午前の部]

講演 ① 「『同対審』答申が求めたもの～差別の規制救済を考える」

◆西島 藤彦（部落解放同盟中央書記長）

講演 ② 「差別の実態と差別禁止法の必要性」

◆内田 博文（神戸学院大学法科大学院教授）

[午後の部]

「生活困窮者自立支援法を部落問題の解決にどう役立てるのか」

報告 ① 「生活困窮者自立支援法の概要と全国の取り組み」

◆垣田 裕介（大分大学大学院福祉社会科学部研究科教授）

報告 ② 「大阪の同和地区を中心とした相談支援の現状と課題」

◆福原 宏幸（大阪市立大学大学院教授）

■テーマ

①同和教育・人権教育の実践報告を通して、これからの取り組み課題を考える。

【午前の部】

報告① 「杵築市における隣保館とNPOとの連携啓発事業」

- ◆佐藤 敬一（杵築市隣保館）
- ◆橋本 純子（NPO法人グッドイナフの会）

報告② 「進路公開の取り組み」

- ◆森山 英治（熊本県立大津町立大津中学校）

報告③ 「高校就学支援の取り組み」

- ◆三丸 博史（福岡県立苅田高等学校）
- ◆入江 隆丈（福岡県立苅田高等学校）

【午後の部】

行政報告 「地域の教育力の向上について」

- ◆中安 史明（文部科学省初等中等教育局児童生徒課課長補佐）

シンポジウム 「地域の教育力と同和教育・人権教育の発展をめざして」

- ◆パネリスト 柴原 成壽（公益社団法人全国人権教育研究協議会代表理事）
花岡 清蔵（日本教職員組合・人権教育推進委員会委員長）
吉岡 正博（部落解放同盟中央執行委員）
- ◆コーディネーター 谷口 研二（公益社団法人福岡県人権研究所事務長）

■テーマ

全国各地で実施された人権に関する住民意識調査の結果から、今後の効果的な啓発活動と人権施策への反映について考える。

■分科会のねらい

- ①人権に関する住民意識調査を実施した高知県、兵庫県、大分県の調査報告から、差別意識の共通性や独自性を明らかにする。
- ②調査結果について住民と行政がどのように共有化をはかり、人権施策に反映する具体的な方向についての意見交換を行う。
- ③調査結果より、関係団体、機関との連携と共働した幅広い取り組みの展開と人権問題の解決、今後の啓発課題を考える。

[午前の部]

- 報告 ①** 高知県「平成24年度高知県人権に関する県民意識調査の結果について」
◆石原 浩二（高知県文化生活部人権課課長補佐）
- 報告 ②** 兵庫県における「人権に関する県民意識調査」（平成25年度）の結果について
◆田中 宏忠（兵庫県健康福祉部参事 人権担当）
- 報告 ③** 地元報告「人権に関する県民意識調査結果2014(平成26)年について」
◆柴田 尚子（大分県生活環境部審議官兼人権・同和対策課長）
- ◆司 会 内田 龍史（尚絅学院大学准教授）

[午後の部]

問題提起とまとめ –これからの啓発活動を考える–

■全国で実施された人権に関する住民意識調査の動向と三県の報告の共通性と独自性を明らかにし、調査以降の啓発活動の実績や人権啓発と施策への反映などについて報告し、今後の効果的な啓発活動や課題について考えます。

- ◆司 会・コーディネーター 内田 龍史（尚絅学院大学准教授）
◆まとめ 上杉 孝實（京都大学名誉教授）

第5分科会 冤罪事件を考える

会場 ビーコンプラザ 中会議室

■テーマ

- ①狭山事件の真相、石川一雄さんの無実の証拠、第3次再審請求の三者協議や証拠開示などの動きについて学習し、狭山事件の再審をひらくための取り組みを考える。
- ②狭山事件、布川事件、足利事件、志布志事件、袴田事件などの冤罪事件の実態を通して、冤罪・誤判を生み出す社会、刑事司法、メディア等の問題点を明らかにするとともに、冤罪・誤判をなくすための課題を考える。
- ③代用監獄や人質司法、検察官、裁判官のありかたなどの問題点を考え、誤判・冤罪をなくすための司法改革の課題を考える。
- ④取調べの全過程の可視化、公正な証拠開示の法制化を具体化するための課題、運動について考える。
- ⑤国際人権自由権規約など国際人権法や人権基準、各国の司法制度に学び、日本における司法改革の課題を考える。

[午前・午後の部]

- 報告 ①** 「狭山事件の再審にむけた取り組みについて（弁護団報告）」
◆中山 武敏（狭山事件再審弁護団主任弁護士）
- 報告 ②** 「狭山事件の再審をかちとるために」
◆石川 一雄（狭山事件再審請求人）
- 報告 ③** 「みどり荘事件無罪判決20年から学ぶもの～冤罪事件と人権を考える」
◆徳田 靖之（弁護士）／菅家 利和（足利事件冤罪被害者）
- ◆司 会 小野寺 一規（部落解放同盟埼玉県連合会書記長）

第6分科会 差別事件の現状と今後の課題

会場 ビーコンプラザ レセプションホール

■テーマ

- ①インターネット上の差別書込み、差別情報の氾濫をはじめ、今日的な差別事件の特徴と取り組みの課題を考える。
- ②土地調査差別事件、問い合わせ事件や戸籍等大量不正取得事件などの取り組みを通して、人権侵害被害防止策について考える。

報告 ① 「学校リーダー育成特別講座差別事件の取り組み」

◆部落解放同盟東京都連合会

報告 ② 「差別ビラ大量配布事件の取り組み」

◆部落解放同盟大阪府連合会

報告 ③ 「同和地区の所在地情報の公開をめぐる裁判について」

◆滋賀県総合政策部人権施策推進課

報告 ④ 「本人通知制度の全国的な取り組み状況と今後の課題」

◆部落解放同盟中央本部

報告 ⑤ 「大分県における差別事件の取り組み状況と今後の課題」

◆部落解放同盟大分県連合会

◆司 会 北口 末廣（部落解放同盟中央執行副委員長）

第7分科会 人権の法制度確立にむけた課題

会場 ビーコンプラザ 小会議室

■テーマ

- ①女性差別撤廃条約の批准から30年を迎えるなか、部落女性が自らの実態把握に取り組んできたアンケート調査の結果を通して、男女平等社会実現にむけた取り組み課題を明らかにする。
- ②障害のある女性の生活実態調査から明らかになった複合差別の現状を学び、今後の課題を考える。
- ③ヘイトスピーチ規制の取り組みを通して、差別禁止法制度のあり方を考える。
- ④国連人権条約機関からの勧告などを生かす取り組みを通して、今日的な日本の人権状況の課題を明らかにする。

報告 ① 「部落女性の実態調査結果から見えてきたもの」

◆山崎 鈴子（部落解放同盟中央執行委員）

報告 ② 「障害のある女性の生活困難～複合差別実態調査報告」

◆藤原 久美子（DPI女性障害者ネットワーク）

報告 ③ 「『人種差別撤廃基本法』制定にむけた取り組み報告」

◆師岡 康子（外国人権法連絡会運営委員／弁護士）

報告 ④ 「国連人権条約機関からの勧告と日本の人権状況を考える」

◆和田 献一（部落解放同盟中央執行委員）

◆司 会 中田 理恵子（部落解放同盟中央女性運動部員）